

授業 科目	CT1J54	2単位	必修	実習	1学年後期	担当 教員	池田正雄	松浦信二		
	保育実習Ⅰ（保育所）						三沢徳枝	佐藤高博		
授業の概要	<p>① 保育所での体験を通して、保育所の役割や機能、保育士の職務（子どもたちとの関わり、他の職員との連携等）を理解する。</p> <p>② 保育所で生活している子どもの活動を観察し、一人ひとりの子どもに合わせた保育士の支援方法について学ぶ。</p> <p>③ 気づきや保育士からの指摘事項を踏まえて、反省会で出された内容から自分自身の課題を明確にする。</p> <p>④ 大学での学習に加えて、実習を通して実際にその場に身を置き、体験することで学びを深める。</p>									
到達目標		学習成果Ⅰ			学習成果Ⅱ			学習成果Ⅲ		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する		◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に学ぶ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4. 保育の計画、観察、記録および自己評価等について基本的な理解をする		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
5. 保育士の業務内容や役割および職務倫理について理解する		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
<p>凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はVページ参照</p>										
<p>〈実習の内容〉 1. 保育所の役割と機能</p> <p>(1) 保育所の生活と一日の流れを理解する。</p> <p>(2) 保育所保育指針の理解と保育の展開を学ぶ。</p> <p>2. 子ども理解</p> <p>(1) 子どもの観察を通して、必要な記録を残す。</p> <p>(2) 子どもの発達過程を理解し、援助や関わり方を学ぶ。</p> <p>3. 保育内容・保育環境</p> <p>(1) 保育の計画に基づく保育内容について実際的に学ぶ。</p> <p>(2) 子どもの発達過程に応じた保育内容を知る。</p> <p>(3) 子どもの生活や遊びと保育環境を注意深く観察する。</p> <p>(4) 子どもの健康管理、安全対策について理解する。</p> <p>4. 保育の計画・観察・記録</p> <p>(1) 保育課程と指導計画について理解し、どのように活用されているかを知る。</p> <p>(2) 記録に基づく省察と自己評価を行う。</p> <p>5. 専門職としての保育士の役割と職務倫理</p> <p>(1) 保育士の業務内容について理解を深める。</p> <p>(2) 保育士の役割と職務倫理について理解する。</p> <p>(3) 保育所の職員間の役割分担や連携のあり方について知る。</p> <p>〈実習の形態・方法〉</p> <p>○ 見学実習・観察実習</p> <p>・デイリープログラムを把握する。</p>										

- ・見学・観察を通して、実習する保育所独自の人的・物的環境について理解する。
- ・集団における遊び等の活動が、子どもの実態に応じて、どのように展開されているかを知る。
- ・保育士の役割と業務内容を理解する。また、保育士がどのように子どもに関わっているのかを把握する。
- ・見学・観察した保育の実際をメモし、子どもの発達および5領域の視点を踏まえて、日誌に記録する。

○ 参加実習

- ・担当保育士の指導を受けながら保育活動に参加する。
- ・保育士の役割と業務内容を体験的に理解する。
- ・子どもとの関わりや発達支援、環境構成の方法について、担当保育士の活動や助言から学ぶ。
- ・子どもの健康管理・安全対策のための対応や衛生面での配慮を学ぶ。
- ・各年齢に応じた、支援の展開方法を学ぶ。

〈留意点〉

○ 実習全般について

- ・実習する保育所の保育方針・目標を理解する。
- ・実習生として何をすべきかを的確に判断し、機敏に行動する。
- ・各年齢の保育室の環境構成について理解する。
- ・各年齢のデイリープログラムを踏まえて、発達支援や遊びの展開方法を理解する。
- ・3歳未満児の生活援助（授乳・排泄・オムツ替え・食事・午睡等）の方法の理解を深める。
- ・デイリープログラムを踏まえて、子どもの姿を観察し、記録する。メモを取るにあたっては、保育の流れの妨げにならないように注意する。
- ・常に課題と問題意識を持って取り組む。
- ・保育所の職員間のチームワークのあり方や保護者との連携の取り方を観察し、その方法を理解する。

○ 参加実習について

- ・積極的に子どもと関わり、子どもの実態を理解するように努める。
- ・屋内外の環境整備・構成等を進んで行う。
- ・早朝保育や延長保育等の実際を知り、保育士の業務内容の理解を深める。
- ・基本的な生活習慣（衣類の着脱・食事・手洗い・排泄など）の支援は担当保育士の指導のもとに行う。
- ・自由遊びについては担当保育士の指導のもとに、子どもたちとの関わり方、遊びの展開方法を学ぶ。

成績 評価	実習先の評価(50%)    日誌・記録等(50%)    合計 100%		
教員 から の コ メ ン ト	① 実習中は体調管理に注意し、10日間遅刻や欠勤をしないように取り組んでください。また、報告、連絡、相談を徹底し、保育所・大学・保育実習指導Ⅰ（保育所）の担当指導教員との連携を大切にしてください。 ② 挨拶、礼儀、マナーを守りましょう。 ③ 明るく、素直に、元気良く、積極的な姿勢で実習に臨みましょう。 ④ 実習の際には、実習指導資料を常に傍に置き、参考にしましょう。		
教科 書	書名 著者 発行所	推薦 図書	書名 著者 発行所

